

令和7年度 第4回四街道市水道事業及び下水道事業運営審議会会議録

日 時 令和7年11月13日(木) 午後1時30分～午後2時40分
場 所 四街道市企業庁舎 2階会議室
出席委員 太田委員 三室委員 北村委員 加藤委員 下里委員
大谷委員 田汲委員 玉置委員
欠席委員 笹原委員 川上委員
事務局出席者 森田上下水道部長 栗飯原上下水道部副参事 伊藤経營業務課長
君塚下水道課長 梅澤下水道課管理係長 秋葉下水道課建設係長
鶴崎経營業務課事業管理係長 菅谷経營業務課財務経営係長
穴倉経營業務課主査補
傍 聴 人 4名

～会議次第～

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議題
 - ①他事業体との比較について
 - ②下水道使用料のあり方について(答申案)
4. その他
5. 閉会

○会議の概要

- ・太田会長より開会の挨拶
- ・会議の公開、会議録の発言者明記の承認
- ・傍聴人の入室(4名)

○議題

太田会長：議題①他事業体との比較について、事務局より説明をお願いします。

≪事務局より、「四街道市下水道事業と他事業体の比較」の内容 説明≫

大谷委員：資料①、白井の処理区域内の人口が1万から5万といった記述があるが、どういった内容を指しているのか。

事務局：処理区域内人口5万～10万の市町村を区分Bとしており、1万から5万を区分Cと分類されるため、そのように記述しております。

大谷委員：資料①、管渠の老朽化率に関して、白井市が7.8%と高い数値になっているように感じるが、その点についてはどのように考えているか。

事務局：供用開始年数が四街道市と白井市は近い年数となっており、どちらも耐用年数の目安である50年以上経過しております。そのため、老朽化率が徐々に上昇しているといった状況で、3.4%と7.8%を単純に比較すれば、四街道市の方が老朽管は少ないと言えます。

大谷委員：3.4%と7.8%というのは、それほど大きな誤差ではないということか。

事務局：3.4%と7.8%という数値は、比率だけを見れば倍の差がございますが、全体の割合から考えますと、それほど大きな差ではないと感じます。

大谷委員：資料①、使用料について3市を比較した場合、四街道は他の市と同じぐらいの供用開始年数でありながら2,574円となっており、印西市や白井市よりも高い金額となっている。前回資料における、今後値上げの予定がある市町村の一覧には、印西市と白井市の名前が含まれていなかったが、そちらに関してどのように分析しているのか。

事務局：前回、第三回の資料において、値上げ予定に印西市と白井市は含まれていないのですが、経営環境自体は本市とほぼ同様です。ただし、市の方針として使用料改定を行うという内容を公開していないか、あるいは繰入金等で対応する予定だと考えられますが、いずれも厳しい状況に置かれている点については同じです。第三回の資料は公開されている情報に基づいて作成しているため、その点をご理解いただければと思います。

太田会長：それでは、議題②下水道使用料のあり方について(答申案)、事務局より説明をお願いします。

《事務局より、「下水道使用料のあり方について(答申案)」の内容 説明》

大谷委員：2ページ、使用料の平均改定率の記載に関して、「現行から23%引き上げる」という表現に関しては、「平均」という言葉を入れる必要があるのではないか。

事務局：「使用料収入の総額を現行から23%引き上げる」と記載していますので、総額から見て23%という記載で、今回においては「平均」という言葉を省略させていただいております。

田汲委員：四街道市として水道料金の基本料金免除をやっていたと思うが、もう終了しているのか。下水道を値上げするならば、下水道でも実施したらどうか。

事務局：国の物価高騰対策に関する交付金を活用し、本年度の9月及び10月の検針分に関しまして、基本料金を減免させていただきました。この措置は交付金を活用した事業のため、今回限りの物となっております。

太田会長：今回の減免は、経営努力によって生み出した財源で実施したものではないということですね。

田汲委員：下水道管の事故もあったし、附帯意見のところに工事施工上の安全性の確保といった内容を入れてはどうか。

太田会長：工事施工上の安全性の確保について附帯意見に盛り込むことに関しては、ご異議のある方はいないでしょうか。

玉置委員：四街道市の下水道の経営状況は良く分かったが、やはり大口の使用者がないのが課題ではないか。何か盛り込むことは出来ないか。

太田会長：水道も含めて、上下水道事業が単独で経営を完結することが難しい状況になってきているということが言えますね。大口使用者の誘致となると市全体としての経営努力といった話になりますね。

大谷委員：補助金が減少傾向にあるという話があったが、自治体の方から補助金について声を上げていくという趣旨を附帯意見に盛り込んでほしい。

下里委員：八潮市の地盤沈下の原因として油等の家庭排水が原因になっていたという話があったので、その抑制について検討しPRをしたらどうか。

北村委員：これまでの説明で使用料が上がることはやむを得ないと感じているが、値上げで困っている方がいるのも事実で、そういった方には上下水道事業として対応するのではなく、政策的に直接的な補助を行うのが今の制度の中では良いのではないかと感じている。

事務局：今回の下水道使用料の改定案でも、小口使用の方への影響を抑制するため、暫定的区分単価は一部残った形としています。

三室副会長：八潮市のこともあり、県としても老朽化に対する工事を実施していかなければいけない状況にある。出来るだけ補助金等を活用して使用者の方への負担がかからないように進めていくためにも、附帯意見に入れるのは良いと考える。

太田会長：ありがとうございました。本日のご意見を踏まえた答申書の修正については、私に一任という形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、議題②「下水道使用料のあり方について(答申案)」はここまでとさせていただきます、本日の議事を終了いたします。ありがとうございました。